

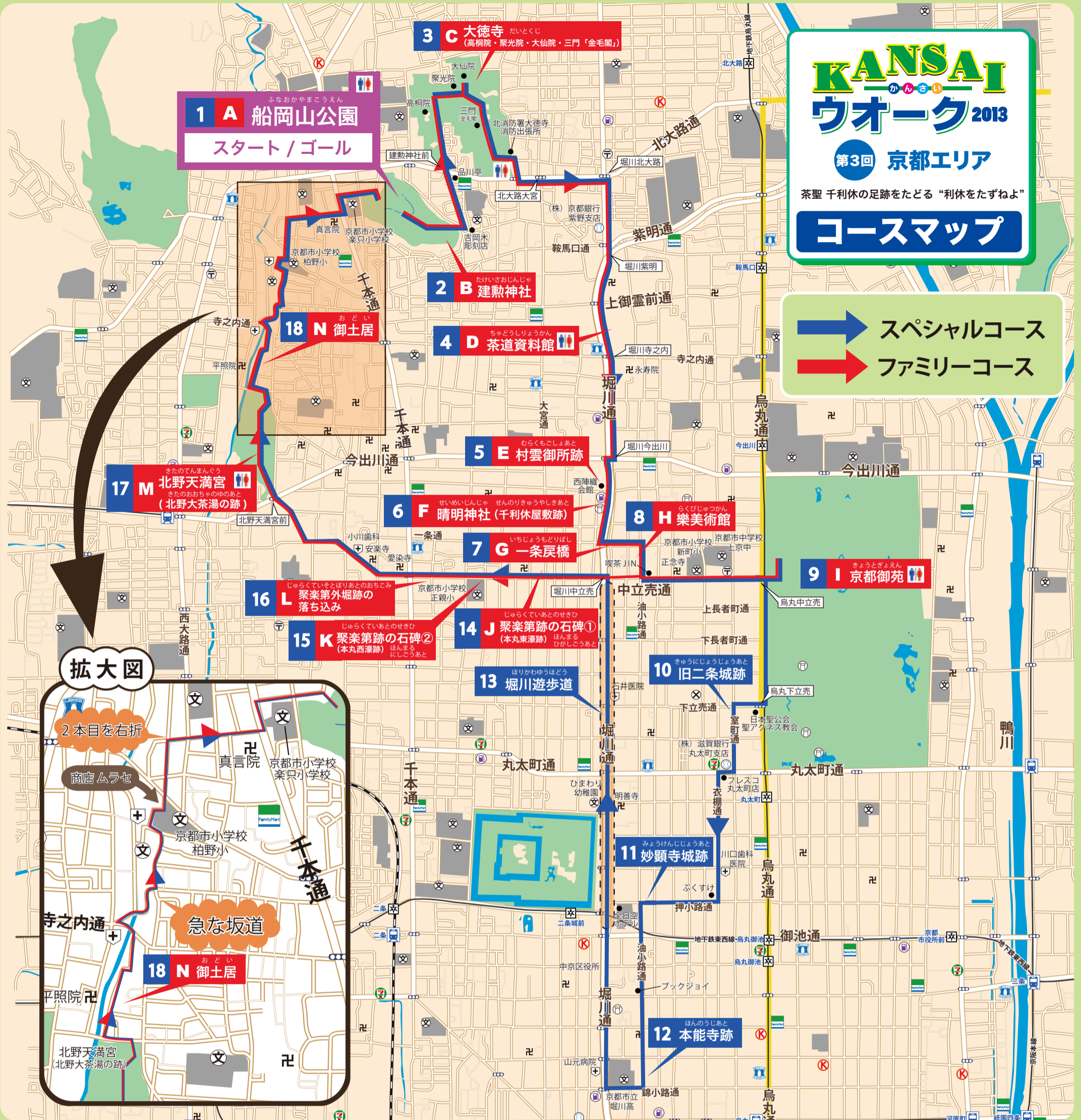
KANSAI ウォーク2013

第3回 京都エリア

茶聖 千利休の足跡をたどる “利休をたずねよ”

コースマップ

 **スペシャルコース**
 **ファミリーコース**



拡大図



ファミリーコース (約8km)

スタート/A. 船岡山公園 ▶ B. 建勲神社 ▶ C. 大徳寺 (高桐院・聚光院・大仙院・三門) ▶ D. 茶道資料館 ▶ E. 村雲御所跡 ▶ F. 晴明神社 (千利休屋敷跡) ▶ G. 一条戻橋 ▶ H. 楽美術館 ▶ I. 京都御苑 ▶ J. 聚楽第跡の石碑① (本丸東濠跡) ▶ K. 聚楽第跡の石碑② (本丸西濠跡) ▶ L. 聚楽第外堀跡の落ち込み ▶ M. 北野天満宮 (北野大茶湯の跡) ▶ N. 御土居 ▶ ゴール/A. 船岡山公園

スペシャルコース (約14km)

スタート/1. 船岡山公園 ▶ 2. 建勲神社 ▶ 3. 大徳寺 (高桐院・聚光院・大仙院・三門) ▶ 4. 茶道資料館 ▶ 5. 村雲御所跡 ▶ 6. 晴明神社 (千利休屋敷跡) ▶ 7. 一条戻橋 ▶ 8. 楽美術館 ▶ 9. 京都御苑 ▶ 10. 旧二条城跡 ▶ 11. 妙顕寺城跡 ▶ 12. 本能寺跡 ▶ 13. 堀川遊歩道 ▶ 14. 聚楽第跡の石碑① (本丸東濠跡) ▶ 15. 聚楽第跡の石碑② (本丸西濠跡) ▶ 16. 聚楽第外堀跡の落ち込み ▶ 17. 北野天満宮 (北野大茶湯の跡) ▶ 18. 御土居 ▶ ゴール/1. 船岡山公園



両コースとも、午後1時から午後4時までにゴールしてください。KANSAIウォークパスポートにチェックを受けてください。

大会の途中で棄権したり、救護を要するときは…
  大会本部 (Central Site) ・救護 (First Aid)
 TEL/070-5262-2501

※この電話は、大会当日のみ有効です。

主催/産経新聞社

今日を愛する。

特別協賛/ **LION**

後援/京都市、京都市教育委員会、京都市体育協会、京都商工会議所

企画運営/ムーヴエンタテインメント

www.kansai-walk.jp

【マップ制作・運営・デザイン】
 (株) ムーヴエンタテインメント
 【コース企画・監修】
 大阪城天守閣研究主幹/北川 央

A. 1. 船岡山公園

「船岡山」という名称は、山の形状から付けられたもので、延暦13年(794)の平安京遷都の際には陰陽五行思想の「玄武」の山とされ、都の中央を南北に貫く朱雀大路の基点となった。清少納言も『枕草子』で「丘は船岡」と、岡の中では船岡山が一番と、その名を挙げている。豊臣秀吉はこの船岡山を大徳寺に寄進した。一帯は昭和6年(1931)に船岡山公園として整備された。

C. 3. 大仙院

大徳寺の塔頭の一つで、大徳寺北派の本庵。本堂は創建当時の建物。内部の床間と玄関は日本最古といわれ、方丈建築としても最も古い遺構の一つで、国宝に指定されている。書院も入母屋造で重要文化財である。本堂の東にある枯山水の庭園は室町時代の枯山水庭園を代表する傑作で、史跡・特別名勝に指定されている。歴代住持には、千利休と懇意であった古溪宗陳(こけいそうちん)、紫衣事件の折徳川幕府に対して一歩も退かなかつた澤庵宗彭(たくあんそうほう)などがいる。

F. 6. 清明神社(千利休屋敷跡)

平安時代の陰陽師として有名な安倍晴明を祀る神社。晴明の屋敷跡に鎮座する。江戸時代の茶書から、千利休の聚楽屋敷が「葎屋町通元誓願寺下ル」にあったことが確認されるが、それは当神社境内にあたる。境内にある「清明井」の水は、千利休が茶の湯に用いたとされ、豊臣秀吉から切腹を命じられた利休は、自害する前の生涯最後の一服を、この井戸の水を飲んで使ったと伝えられる。

10. 旧二条城跡

過去に二条城と呼ばれる城郭、御所は複数存在した。この地にあった二条城は、永禄12年(1569)に織田信長が、室町幕府第15代将軍・足利義昭の御座所として築いたもので、約390メートル四方の敷地に二重の堀や、三重の天主を備えた。その後、室町幕府の滅亡に伴い廃城となった。天正4年(1576)には解体され、安土城築城に際し建築資材として再利用された。現在の二条城は、徳川家康によって将軍上洛の際の居館として慶長8年(1603)に築かれた。

J. 14. 聚楽第跡の石碑①(本丸東濠跡)

聚楽第は、豊臣秀吉が京都における豊臣政権の政庁として、天正14年(1586)に築城を開始し、翌年に完成した。この地点では、平成3年(1991)に、南側のハローワーク西陣の建替工事に伴う発掘調査が行われ、深さ8.4m幅40mと推定される聚楽第本丸東濠跡が発見され、約600点の金箔瓦が出土した。これらの金箔瓦は、その後平成14年に国の重要文化財に指定された。

N. 18. 御土居

天正19年(1591)豊臣秀吉の命により作られた京都を囲む土壁。外側の堀とあわせて「御土居堀」とも呼ぶ。秀吉は、戦国時代のあい続く戦乱により不明となっていた洛中(京都)の境を、御土居の築造により新たに定めた。御土居の内部が洛中で、外部が洛外。京都防衛の機能も果たした。

B. 2. 建勲神社

織田信長の偉業を称え、明治2年(1869)に明治天皇が創祀した神社で、明治43年には社殿を船岡山の山麓から山頂に遷した。明治8年には別格官幣社に列している。桶狭間合戦で今川義元を討った際に織田信長が戦利品として得た「義元左文字」や、太田牛一自筆本の『信長公記』(いずれも重要文化財)など、織田信長ゆかりの宝物を所蔵する。

C. 3. 大徳寺三門(金毛閣)

大徳寺は臨済宗大徳寺派の大本山で、鎌倉時代末期の正和4年(1315)に大燈国師宗峰妙超(しゅうほうみょうちょう)が開創した。室町時代には応仁の乱で荒廃したが、一休宗純(いっきゅうそうじゆん)が復興した。山門は大徳寺の正門で、「三門」とも呼ばれる。三門とは、空門・無相門・無願門の三境地を経て仏国土に至る門、三解脱門(さんげだつもん)の意。大徳寺の三門は連歌師・宗長の寄進で享禄2年(1529)にまず下層のみが竣工し、天正17年(1589)千利休が上層を完成させて「金毛閣」と名付けられた。大徳寺では、利休の恩に報いるため金毛閣に雪駄を履いた利休の木像を安置したが、このため門を通る者は利休の足下をくぐることになり、これが豊臣秀吉の怒りを買ひ、利休切腹の一因となった。

G. 7. 一条戻橋

延喜18年(918)に漢学者三善清行が亡くなり、熊野で修行中であつた息子・浄蔵が、父の死を聞いて急ぎ都へ戻って来た。この橋の上で葬列と出会った浄蔵が、棺にすがって祈ると、雷鳴とともに清行が一時生き返り、父子が抱き合ったという。「戻橋」の名はこの伝説に由来するという。他にも、源頼光四天王の一人渡辺綱がこの橋の上で美女と出会ったが、美女はたちまち鬼女に変わり、綱がその片腕を切り落としたという話や、陰陽師安倍晴明がこの橋の下に式神を隠し置いたという話が伝えられる。千利休の切腹後、豊臣秀吉は利休の首をこの一条戻橋にさらした。

11. 妙顕寺城跡

妙顕寺は、鎌倉後期、日像がはじめて京都に建立した日蓮宗寺院であり、たびたび場所は移ったが、戦国時代にはこの地にあった。天正11年(1583)9月豊臣秀吉は寺を小川寺ノ内の現寺地に移転させて、跡地に城郭(邸宅)を築造した。これが妙顕寺城で、天正14年(1586)に聚楽第を建造するまで、京都における秀吉の政治的拠点であった。城郭遺構は現存しないが、「古城町」という町名がその名残りを今に伝えている。

K. 15. 聚楽第跡の石碑②(本丸西濠跡)

大正年間に正親学区の有志の寄付により建立された石碑。建碑当時は聚楽第は大まかな位置しかわかっていなかったため、「此附近聚楽第址」という碑文になっているが、近年になってからの発掘調査に基づく推定範囲で、建碑場所が西濠にあたるため、平成20年(2008)、石碑横に「此付近聚楽第本丸西濠跡」の駒札(解説板)が設置された。

C. 3. 高桐院

大徳寺の塔頭の一つ。江戸時代初期の武将で、千利休の七人の高弟(利休七哲)としても有名な細川忠興(三斎)が建立した細川家の菩提寺。開山には、父・幽斎の弟・玉甫紹琮(ぎょくほしょうそう)を迎えた。書院は利休の邸宅を移築したものとされ、書院に続く茶室「松向軒」は三斎好みの二畳台目の茶席。境内には忠興と夫人ガラシャの墓があり、忠興墓標の石灯籠は、利休が秀吉の望みを断って贈ったものと伝えられる。

D. 4. 茶道資料館

茶道諸流派中最大の流派である裏千家の十五代鵬雲斎家元の発案で設立された美術館で、昭和54年(1979)開館。茶道具の鑑賞と茶道体験を通じて日本の文化が感じられる。茶道具や茶道に関する美術工芸品など広範囲な資料を展示している。

H. 8. 楽美術館

樂焼は桃山時代の樂家初代長次郎によって始められた。千利休から「侘茶」の理想に適う茶碗を求められた長次郎は、その意をくみ取り、赤樂茶碗・黒樂茶碗を製作した。楽美術館は昭和53年(1978)に設立された美術館で、樂焼窯元・樂家に隣接して建てられ、樂家歴代の作品を中心に、樂家に伝わった茶道美術品と関係古文書など、約1000点を収蔵する。

12. 本能寺跡

本能寺は法華宗(本門流)の大本山で、応永22年(1415)に日隆が油小路高辻と五条坊門の間に建立した。当初は「本応寺」と号し、一時は破却の憂き目も見たが、永享5年(1433)六角大宮に広大な寺地の寄進を受け、移転再建。「本能寺」と改称された。天文5年(1536)天文法華の乱で焼失したが、四条坊門西洞院のこの地に新たに寺地を得て再建。天正10年(1582)には有名な「本能寺の変」の舞台となった。その後、豊臣秀吉の京都改造にとともに、中京区下本能寺前町の現寺地に移転した。

L. 16. 聚楽第外堀跡の落ち込み

土屋町中立売下ルの傾斜のきつい坂道は、古くから聚楽第外堀の痕跡による落ち込みと考えられていた。外堀は土屋町通の東側、北限はこの坂道を下ったところにある東側の路地の南側までとされている。聚楽第跡地周辺には堀跡による落ち込みと推測される坂道がいくつもあるが、この坂道と聚楽第南外堀跡の碑がある松林寺境内付近が分かりやすい。

C. 3. 聚光院

大徳寺の塔頭の一つ。永禄9年(1566)三好義継が亡父・三好長慶の菩提を弔うため、笑嶺宗新(しょうれいそうきん)を請じて建立した寺。聚光院の名は、三好長慶の法名「聚光院殿前匠作眠室進公大禅定門」に由来する。笑嶺宗新に参拝した千利休が檀越となり、以来、茶道三千家の菩提寺になった。境内には千利休の墓を中心に三千家歴代の墓所がある。方丈に続く茶室「閑隠席」は利休好みの三畳台目の茶席で、他に茶室「栞床席」もあり、ともに重要文化財に指定されている。

E. 5. 村雲御所跡

豊臣秀吉の姉で、秀吉に自害させられた関白豊臣秀次の生母でもある瑞龍院日秀(1534~1625)が、わが子秀次の菩提を弔うために建立した寺が瑞龍寺で、この付近の地名が「村雲」と呼ばれた。日蓮宗唯一の厄門跡寺院。昭和38年(1963)に、かつて秀次の居城であった滋賀県近江八幡市の八幡山城址に移転した。

I. 9. 京都御苑

京都御所・仙洞御所・大宮御所を囲む広大な緑地を「京都御苑」と呼ぶ。現在の京都御所は幕末安政2年(1855)の建築であるが、秀吉の頃も御所はこの地にあり、秀吉は天正13年(1585)10月7日と翌14年正月15日の二度、御所において茶会を行っている。最初の茶会の折、秀吉の後見役を務めた千宗易に、朝廷から「利休居士」の号を賜り、以後宗易は「千利休」と呼ばれるようになる。2回目の茶会の際には、秀吉は大坂城から「黄金の茶室」を御所に持ち込んだ。

13. 堀川遊歩道

堀川は、京都市のほぼ中央、堀川通に沿って北から南に流れる川で、平安京造営時に運河として開削された。平安時代には、主に北山連峰の木材資源の運搬に利用され、また貴族たちは、彼らの屋敷内に堀川の清流を引き入れ、庭園を潤したと伝えられる。1200年の歴史をもつ堀川であったが、昭和に入ってから度重なる浸水被害が発生したため、1940年~50年代の浸水対策事業により水源が断たれた。その後、この堀川に清流を蘇らせようという市民の願いが強くなり、平成14年(2002)に堀川水辺環境整備事業が開始され、平成21年に現在のような整備された遊歩道となった。

M. 17. 北野天満宮(北野大茶湯の跡)

北野天満宮は菅原道真を祀る神社で、天曆元年(947)に創祀された。全国に約1万社ある天満宮・天神社の総本宮。現在の本殿は慶長12年(1607)に豊臣秀頼が復興したもので、国宝に指定される。豊臣秀吉は天正15年(1587)10月に北野天満宮と社前の北野松原で大茶会を開催した。「茶の湯」に興味がある者なら誰でも参加せよ、との秀吉の意向が伝えられ、身分を問わず、多くの人々が参加した。秀吉や利休は自ら茶を点て、参加者に茶を振るまつた。

こどもクイズ



中学生以下のお子様対象のクイズです。クイズに答えて記念品をもらおう!

問題

北野天満宮の『ライオンちゃん』はど〜れだ?

A



B



C



答え

